

『津野山鏡』下巻正誤表（2024年11月3日版）

127	126	123	123	123	123	120	116	100	97	93	91	91	90	88	88	87	85	83	78	78	78	77	77	70	62	62	59	59	41	26	24	13
10	9	13	11	8	1	17	13	5	20	3	3	2	18	15	15	17	2	16	12	10	4	1	2	17	5	16	16	10	12	15	2	
中平版）受け取った		中平掃討頭之信		駿河守之房		津野本城の地		永正十年（一四三八年）		教義擁護		享德二年間		【細川吉兆家】		対面が行われた和解が成立		享德二年間		多ノ郷の加茂神社		四、幕府による討伐		細川吉兆家		宮殿の衛士		絶海中津（三二歳）		絶高		
中平版）を受け取った		中平掃部頭之信		駿河守之房		津野本城姫野々城の地		永享十年（一四三八年）		教通擁護		享德四年		【河野家】通宣		対面が行われ和解が成立		享德二年		多ノ郷の賀茂神社		四、室町幕府による討伐		細川京兆家		宮殿の衛士		絶海中津（六六歳）		絶高		

290	286	257	253	245	244	237	233	229	216	215	212	212	191	190	188	174	173	171	166	166	163	151	145	145	144	143	136	134	129	128	128	127	127		
9	21	15	4	13	5	10	9	18	4	13	18	9	1	5	7	16	4	13	17	2	19	13	12	12	9	6	9	13	8	2	17	16			
御認か誤記		南朝方の籠る大高坂城		巧みな鶴網さばき		構原の船戸三郎左衛門		親として仕える		一六八一年二かけて		越前国を総称を総称して		高野山上蔵院は次の		房基から偏諱を受けた		永七七年（一五六四年）		中村で生まれた房家		参陣して願いたい。		長徳院		鎌倉時幕府		その周辺の機内		侍従横川景三による元実		中平和多進定毅		（一七〇九年）生誕	
誤認か誤記		南朝方の籠る大高坂城		巧みな鶴網さばき		構原の船戸三郎左衛門		臣として仕える		一六八一年に於て		越前国を総称して		高野山上蔵院には次の		房基から偏諱を受けた		永祿七年（一五六四年）		中村で生まれた房家		参陣願いたい。		長徳院		鎌倉幕府		その周辺の畿内		住持横川景三による元藤		中平左衛門定経		（一七〇九年）生誕	

436	369	361	352	341	339	333	332	328	319	317	317	315	310	305	305	301	292	291	291	12	12																								
32	10	5	20	14	6	4	8	12	20	19	10	8	13	18	17	5	10	18	18	18	12																								
津野基高の義兄。		緒方藤蔵人権照宛ての		領国		山内次郎兵衛祐一は九代元		有ル間敷（まじく）候		仁井田郷（注2）		悲運な死を告げる		元享院		二月吉日		論文であるはずだが、		【訂正理由：より鮮明な墓碑を入手し訂正】		津野城主中務少輔定勝元和		卒去葬于長生庵側		原村之内松谷弟兵衛孫次郎		臣先等御子勝興		先等御子勝興		故二心区		也二定勝ハ		津野城主中務少輔定勝元和		村野定勝		津野城主中務少輔定勝元和		（書き下し）		【修正理由：左記の訂正版墓碑に基づき修正】	
津野定勝の義兄。		緒方藤蔵人権照宛ての		領国		山内次郎兵衛祐一は九代元		有ル間敷（まじく）候		仁井田郷（注2）		悲運な死を告げる		元享院		二月吉日		論文であるはずだが、		【訂正理由：より鮮明な墓碑を入手し訂正】		津野城主中務少輔定勝元和		卒去葬于長生庵側		原村之内松谷弟兵衛孫次郎		臣先等御子勝興		先等御子勝興		故二心区		也二定勝ハ		津野城主中務少輔定勝元和		村野定勝		津野城主中務少輔定勝元和		（書き下し）		【修正理由：左記の訂正版墓碑に基づき修正】	